



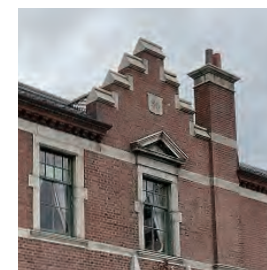
旧下関英国領事館の照明計画

国道9号線の交差点に面し、都心の街並みに佇む旧英国領事館。赤煉瓦と白い石材の対比が美しい外観は、光のグラデーションを用いた照明手法により、繊細な建築様式や起伏のある外壁の表情を照らします。また、建物の重要な景観要素である三連アーチ窓や煙突を持つ階段状の切妻壁、玄関上部の紋章は、投光照明により強い陰影をつくり、建築の特徴を際立たせる照明デザインを行います。行き交う車窓からのシーケンスや、周辺施設・歩道橋からの俯瞰的な眺めに配慮し、エモーショナルな光景を創出します。
(赤煉瓦が特徴的な歴史的建造物の表情を大切にするため、カラー照明演出は行いません)

旧英国領事館 建築の特徴



赤煉瓦壁
レンガ長手だけの段と小口だけの段を交互に積む方式
(クイーンアン様式)



切妻壁
煙突をもつ階段状の切妻壁
(ステップ・ゲブル)



ベランダ
赤煉瓦の円形アーチと白い
石材の丸柱が連続した配置



紋章
英王室の許可を得て
復原した玄関上部の紋章